

# 閑泉樋南遺跡

—発掘調査報告—

昭和61年

前橋市教育委員会  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団



## 序

閑泉橋南遺跡調査報告を刊行することができました。この報告書が斯学の研究に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

本遺跡は、昭和58年2月に発掘調査した閑泉橋遺跡と道路をへだてた南側に位置する。

閑泉橋遺跡では、推定上野国府域を考える上で重要な大溝を発見した遺跡である。そこでマンション建築に先だち大溝及び国府域を研究する上でも重要な地であるため発掘調査を実施することになった。

調査の成果としては、古墳時代後期の住居跡を発見することができた。

調査区北側に東西に走る巾5mほどの溝が発見されたが国府域にかかわるか不明であるが今後の調査研究に負うところが多いものである。

調査にあたり㈱藤田プロモーター作業員さん、地主等に多大な協力を得られたことに記して感謝申し上げます。

昭和61年3月1日

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 奈良 三郎



## 例　　言

1 本書は賃住宅建設に伴い、事前調査された前橋市元総社町に所在する関泉植南（かんせんといみなみ）遺跡の調査報告書である。

2 調査は確認調査を前橋市教育委員会が行ない、本調査を山武考古学研究所が行なった。

3 遺跡の所在地及び調査期間は下記の通りである。

所在地 前橋市元総社町2丁目8-7

調査期間 確認調査 昭和60年5月22日

本調査 昭和60年6月25日～7月25日

4 本書の遺物・図面の整理は根本時子、富田弘子の協力を得て、千田幸生が行なった。

5 本書の執筆は第1章、第1節を浜田博一が行い他は千田幸生が行なった。

6 本書に使用した写真は千田幸生が撮影した。

7 本書の編集は千田幸生が行ない、所長平岡和夫が総括を行なった。

8 発掘調査から本書刊行に至るまで下記の機関の御指導、御助言を賜った。記して感謝の意を表す次第であります。

前橋市教育委員会 (株)岡田工業 (株)藤田ビジネスプロモーター

9 発掘作業参加者

飯塚昭子 碓井享祐 碓井フミ 太田一郎 小川悦子 加藤八重子 金井福次郎

木村本次郎 木村妙子 小暮トミ 近藤六三郎 佐々木勇 高橋豊美 春山光男

松田隆次 真庭卯平 真庭トシ 植原久仁江 山田義定

## 凡　　例

1 本書中に使用した遺構番号は現地調査において使用したものそのまま用いた。この為土壇には欠番となるものがある。

2 本書に使用した北は磁北を表わす。

3 遺構の挿図の縮尺は住居址・土壇は60分の1、カマドは30分の1、溝は80分の1、全測図は200分の1を用いた。

4 スクリントーンは焼土の範囲を示す。

5 遺物の挿図の縮尺は $\frac{1}{4}$ を用いた。尚、溝出土遺物は $\frac{1}{4}$ 、古銭は $\frac{1}{4}$ を用いた。

6 遺物の写真横に付した番号は、挿図中の番号と一致し、写真を割愛した遺物の番号は欠番となっている。

7 遺物の番号については、現地作業において用いたものを改訂して収録した。このため現地作業の番号は遺物の一覧表の備考欄に収録した。



## 本文目次

序文

例言

凡例

### 第1章 調査に至る経過と組織

第1節 調査に至る経過 ..... 1

第2節 調査の組織 ..... 1

### 第2章 遺跡の立地と考古学的環境

第1節 遺跡の立地 ..... 3

第2節 考古学的環境 ..... 3

### 第3章 調査の経過

第1節 調査の方法 ..... 5

第2節 日誌抄 ..... 6

第3節 土層 ..... 6

### 第4章 検出された遺構と遺物

第1節 住居址 ..... 8

第2節 竪穴状遺構 ..... 19

第3節 土塙 ..... 19

第4節 溝 ..... 23

第5節 遺構外出土遺物 ..... 24

### 第5章 まとめ

参考文献 ..... 25

参考文献 ..... 26

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	2
第2図 遺跡周辺図	4
第3図 グリッド配置図・トレンチ設定図	5
第4図 標準堆積土層模式図	6
第5図 遺跡全測図	7
第6図 1号住居址実測図	8
第7図 1号住居址出土遺物(1)	9
第8図 1号住居址出土遺物(2)	10
第9図 2号住居址実測図	11
第10図 2号住居址出土遺物	11
第11図 3号住居址実測図(1)	12
第12図 3号住居址実測図(2)	13
第13図 3号住居址出土遺物	15
第14図 4号住居址実測図	16
第15図 4号住居址出土遺物	17
第16図 堪穴状遺構実測図	18
第17図 土塁実測図	20
第18図 2・7号土塙出土遺物	20
第19図 1・2号溝実測図(1)	21
第20図 1・2号溝実測図(2)	22
第21図 1号溝出土遺物	22
第22図 遺構外出土遺物	24

## 表 目 次

表1 1号住居址出土遺物観察表	10
表2 3号住居址出土遺物観察表	14
表3 4号住居址出土遺物観察表	17
表4 1号溝出土遺物観察表	23

## 図版目次

図版 1	1. 確認全景 西→東	27
	2. 1号住居址遺物出土 状況	
	3. 同	
	4. 同	
	5. 同	
図版 2	1. 1号住居址完掘	28
	2. 2号住居址遺物出土 状況	
図版 3	1. 3号住居址遺物出土 状況	29
	2. 同	
	3. 3号住居址貯藏穴	
	4. 3号住居址カマド	
	5. 3号住居址完掘状況	
図版 4	1. 4号住居址カマド	30
	2. 4号住居址完掘状況	
図版 5	1. 積穴状遺構完掘状況	31
	2. 1号土塙	
	3. 2号土塙	
	4. 5号土塙	
	5. 8号土塙	
図版 6	1. 1号溝Bトレーナー遺物 出土状況 南→北	32
	2. 同 西→東	
	3. 1号溝Cトレーナー遺物 出土状況 南→北	
	4. 同 西→東	
	5. 1号溝Dトレーナー遺物 出土状況 南→北	
	6. 同 西→東	

図版 7	1. 1号溝Eトレンチ遺物 出土状況 南→北 2. 同 西→東 3. 1号溝Gトレンチ遺物 出土状況 西→東 4. 同 完掘 5. 1号溝Cトレンチ完掘状況 西→東 6. 1号溝Dトレンチ完掘状況 西→東	33
図版 8	1. 1号溝Eトレンチ完掘状況 西→東 2. 2号溝遺物出土状況 西→東 3. 発堀調査終了全景 西→東	34
図版 9	1号住居址出土遺物	35
図版10	1・2・3号住居址 出土遺物	36
図版11	3・4・号住居址出土遺物	37
図版12	1号溝、2・7号土塁 出土遺物	38

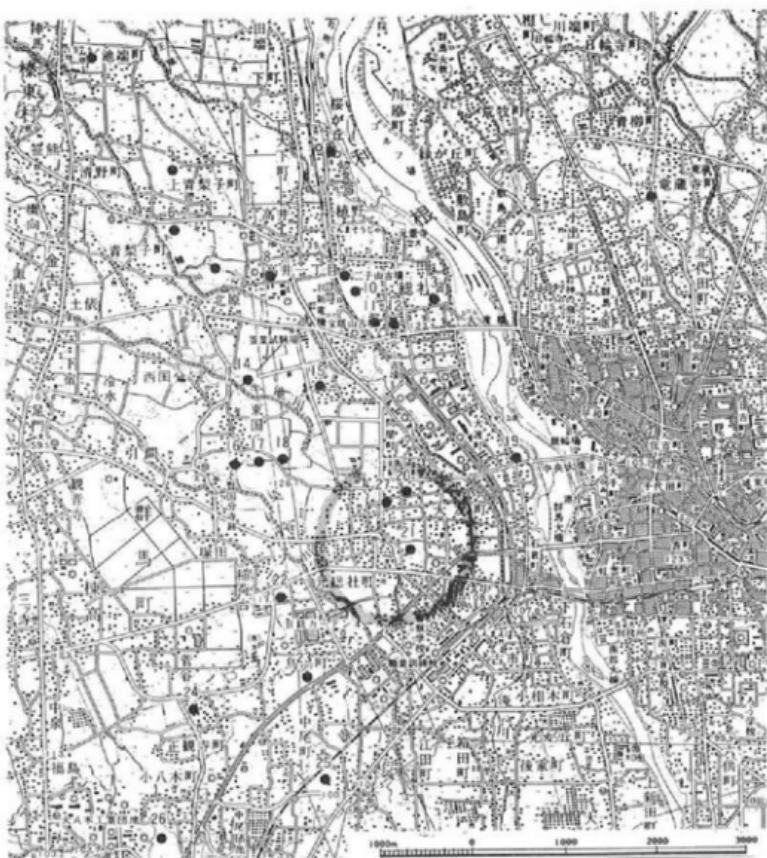
# 第1章 調査に至る経過と組織

## 第1節 調査に至る経過

- 60年4月19日 前橋市元総社町2071番地の2、関口良作氏より前橋市教育委員会あて、貸住宅建設に伴う表面調査依頼が提出される。予定地は総社町二丁目8-7、現況は畠、面積は873m<sup>2</sup>である。
- 60年4月22日 表面調査の結果、当該地域には原始・古代の土器が散布し、隣接して開泉橋遺跡も確認されているため試掘調査の必要がある旨、4月30日に申請者あて回答。
- 60年5月7日 申請者より試掘依頼が提出される。
- 60年5月22日 試掘調査を実施。トレンチ4条を入れた結果、古墳時代の住居跡2軒、溝2条、土塁4基を検出し、土師・須恵片も多数見られた。
- 60年5月29日 試掘結果を申請者に回答。
- 60年6月17日 当該地開発施工者である㈱藤田ビジネスプロモーターより市教委あて発掘調査依頼が提出される。
- 60年7月1日 前橋市埋蔵文化財発掘調査団で調査を受託し、現場調査は山武考古学研究所へ委託することでそれぞれ委託契約を締結。61年3月31日までを調査期間とし調査に着手。

## 第2節 調査の組織

団長 奈良三郎 (教育次長)  
発掘調査指導 平岡和夫 (山武考古学研究所 所長)  
タ 大和久震平 ( 同 調査研究室長)  
担当者 千田幸生 ( 同 調査研究員)  
事務局 前橋市教育委員会



1. 開泉橋南遺跡
2. 清里・陣馬遺跡
3. 總社櫻ヶ丘遺跡
4. 青柳寄居遺跡
5. 庚申塚遺跡
6. 清里南部・中島遺跡
7. 下東西遺跡
8. 祐木遺跡
9. 總社二子山古墳
10. 愛宕山古墳
11. 宝塔山古墳
12. 蛇穴山古墳
13. 遠見山古墳
14. 國府境遺跡
15. 山王寺
16. 國分寺
17. 國分守中間地域遺跡
18. 國分尼寺
19. 王山古墳
20. 開泉橋遺跡
21. 元總社明神遺跡
22. 烏羽遺跡
23. 中尾遺跡
24. 正觀寺遺跡
25. 日高遺跡
26. 大八木遺跡
27. 國府推定地域

第1図 遺跡位置図

## 第2章 遺跡の立地と考古学的環境

### 第1節 立地

本遺跡は国鉄上越線新前橋駅の北北西約1.8km、利根川右岸榛名山南東麓に位置する。榛名山南東麓は相馬ヶ原扇状地を形成し、その南東で平坦な前橋台地へ移行する。遺跡はこの前橋台地上に位置し、牛池川、染谷川、八幡川等の河川が南流している。遺跡の東側は前橋市の中心地であり、西側には桑畠が多く残っている。標高は116mを計る。

### 第2節 考古学的環境

本遺跡の位置する前橋市元経社町から群馬町にかけての地域は、上野国の国府がおかれ、奈良時代における群馬県の政治文化の中心地であった。又縄文時代から平安時代に至るまで多数の遺跡が存在する地域もある。

特に近年間越自動車道建設に伴う大規模な発掘が行なわれ、多大な遺構・遺物が検出されている。

以下各時代ごとに概観する。

#### 縄文時代

国分寺中間地域遺跡で中期を中心とする住居址が検出されている。

#### 弥生時代

清里庚申塚遺跡で環濠を伴う中期後半の住居址が検出されている。日高遺跡では水田址と方形周溝墓が検出されている。

#### 古墳時代

総社古墳群が存在する。いずれも横穴式石室を持つものである。

王山古墳、遠見山古墳は6世紀前半までには築造されていたと思われ、横穴式石室の初期のものと考えられている。總社二子山古墳、愛宕山古墳は、6世紀末から7世紀初頭にかけての築造と考えられている。宝塔山古墳、蛇穴山古墳は、8世紀初頭の築造で、終末期の古墳として知られている。

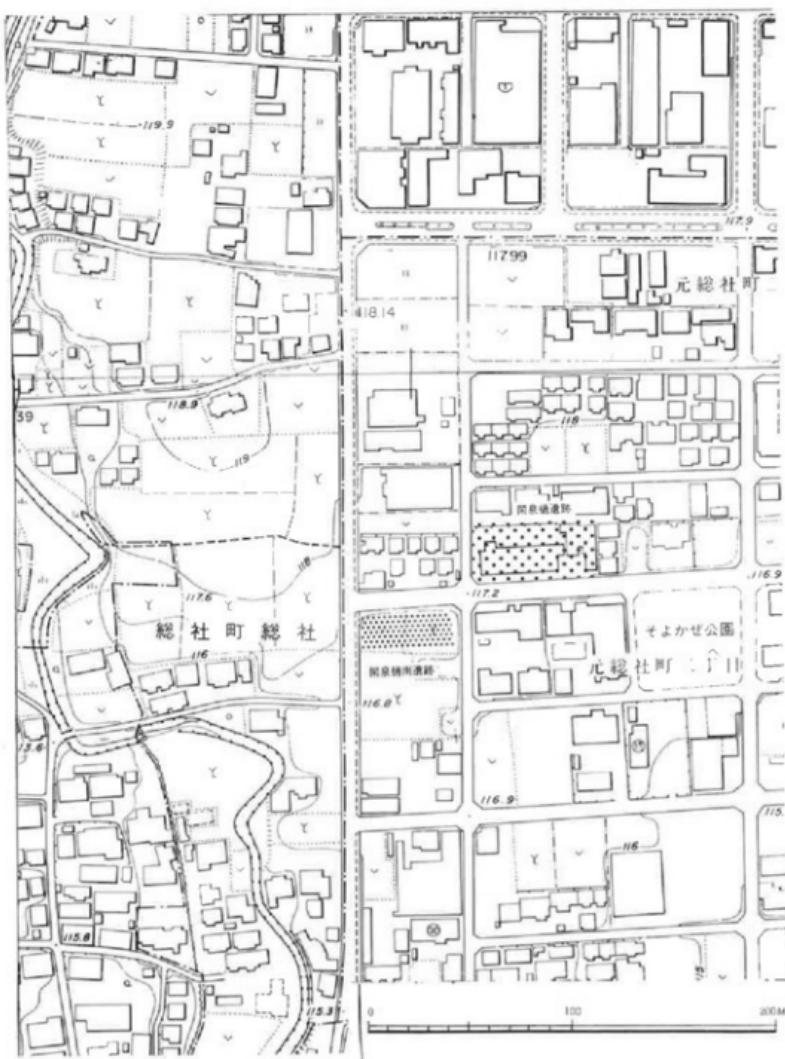
集落は大規模なものは少ないが、後期を中心に点存する。本遺跡の北側には閉泉塙遺跡があり、後期の住居址が検出され、本遺跡検出の住居址との関連が考えられる。

#### 奈良・平安時代

上野国の国府が置かれ、国分僧寺、国分尼寺、山王院寺が建てられる。山王院寺は伽藍配置は不明であるが、出土した瓦などから白鳳期の建立と推定されている。

集落も鳥羽遺跡、国分寺中間地域遺跡、中尾遺跡、清里・陣馬遺跡など大規模な集落が出現する。

本遺跡周辺では至る所で、奈良・平安時代の遺物が採取されており、当時この地域が上野国を中心地であったことを窺わせる。



第2図 遺跡周辺図

### 第3章 調査の経過

確認調査は873m<sup>2</sup>を対象とし、昭和60年5月22日に行なった。その結果住居址、土塙、溝等が検出された。

本調査は425m<sup>2</sup>がその対象となり、昭和60年6月25日に開始した。梅雨時でもあり、雨にたられたが、同年7月25日に終了した。

#### 第1節 調査の方法（第3図）

確認調査のトレンチ法を用い、調査区に合わせて任意に設定し、堀り下げを行なった。

本調査区のグリッドは磁北に合わせて、南北に1・2・3、東西にA B C Dとし、各グリッドの北西側の交点を基点とした。

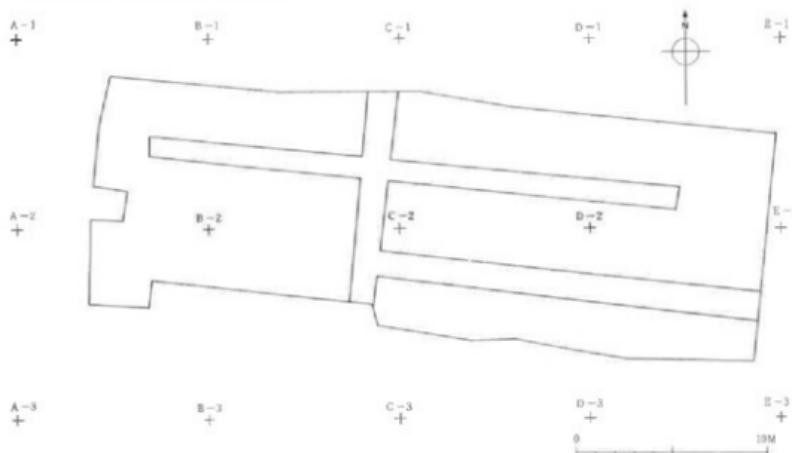
各遺構の調査は土層観察の為のベルトを残して掘り下げを行ない、遺構内の充填土の観察を行なった。

1号溝は完掘せず、トレンチによる調査を行なった。

遺物は遺構外のものはグリット一括で取り上げ、遺構に伴うと思われるものは、その出土位置を記録した。

実測図は全体測量を200分の1で実測し、各遺構は20分の1で実測した。なお住居址のカマドは10分の1で実測した。

写真の撮影は大型白黒カメラ、小型白黒カメラ、スライド用小型カメラの3台で行ない、調査の各段階での記録を行なった。



第3図 グリッド配置・トレンチ設定図

## 第2節 日誌抄

- 6月25日 本調査区の範囲設定。表土掘削の開始。
- 6月26日 表土掘削終了。
- 6月27日 作業員が入り、確認作業を行なう。住居址4軒を確認する。
- 6月29日 溝、土塁を確認する。
- 7月1日 雨のため現場水没。ポンプによる排水作業を行なう。
- 7月3日 住居址検出部分の拡張作業を行なう。
- 7月4日 確認全景写真の撮影。
- 7月5日 1号構の掘り下げを行なう。溝は幅が5mあり、調査区の北側の半分弱を占める。  
全掘が困難なため、トレンチによる調査とする。
- 7月9日 1号住居址の掘り下げ開始。
- 7月10日 2・3号住居址の堀り下げ開始。
- 7月12日 1・2号住居址の実測・写真撮影。3・4号住居址の掘り下げを行なう。
- 7月17日 1号溝の実測・写真撮影。
- 7月18日 土塁及び不明確認分の堀り下げ。
- 7月20日 1号溝のトレーンチを2本増やし、掘り下げを行なう。
- 7月22日 3・4号住居址の実測・写真撮影を行なう。竪穴状遺構の堀り下げ。
- 7月23・24日 各遺構の実測・写真撮影を行ない、個々の遺構の調査を終了する。
- 7月25日 全測図の作成。清掃を行い終了写真の撮影を行なう。  
発掘調査を終了する。

## 第3節 土層（第4図）

本遺跡の周辺は榛名山ニッ岳降下のFA・FP層、浅間山降下のB・C軽石層が検出されている場合も多い。しかし本遺跡ではC軽石が少量検出されたのみである。

遺構は古墳時代の住居址はⅢ層下から掘り込まれ、中世以降と考えられる溝はⅡ層上面から堀り込まれている。

土層は南壁中央の堆積状況を模式化したものである。

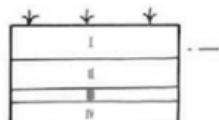
L : 116.00

I層 喀褐色土 表上 25cm前後の堆積である。

II層 喀褐色土 C軽石を少量含む、しまり粘性ともに  
あまりない。15cm前後の堆積である。

III層 黒褐色土 C軽石をやや多く含む。しまり良く、  
粘性ない。西側はほとんど検出されず、  
東側は10cm前後の堆積である。

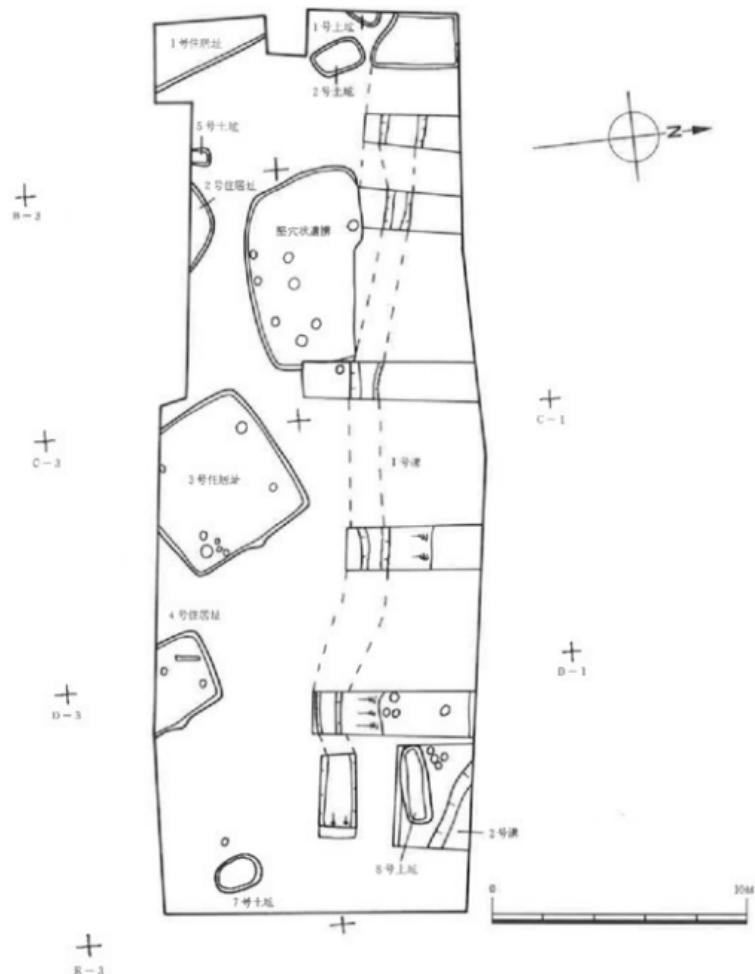
IV層 暗色土 ローム漸移層。



第4図 標準堆積土層模式図

## 第4章 検出された遺構と遺物（第5図）

本遺跡で検出された遺構は古墳時代後期の竪穴住居址4軒と、歴史時代と思われる土塁5基、溝2条、及び竪穴状造構1基である。



第5図 遺跡全測図

## 第1節 住居址

住居址は調査区南側で4軒が検出された。いずれも調査区外にまたがり、完掘できたものはない。

1号住居址 (第6~8図 図版1-2-5・9・10 表1)

本址は調査区南西側B-2グリッドで検出された。南側と西側が調査区外にまたがり、北側は塔が立っているため、一部のみの調査である。

主軸方向はN60°Eと思われる。プランは方形を呈すると思われ、出土した遺物からカマドを有する住居址と考えられる。

確認面は第Ⅱ層下、第Ⅲ層上面で、掘り込みは30cmである。

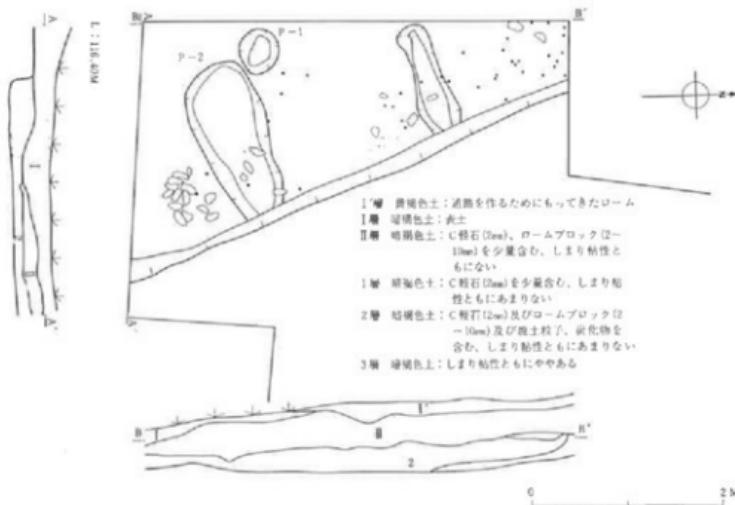
覆土は暗褐色土を基調とする自然堆積である。

壁は東壁の一部のみの検出であるがほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、踏み固めはほとんど見られない。

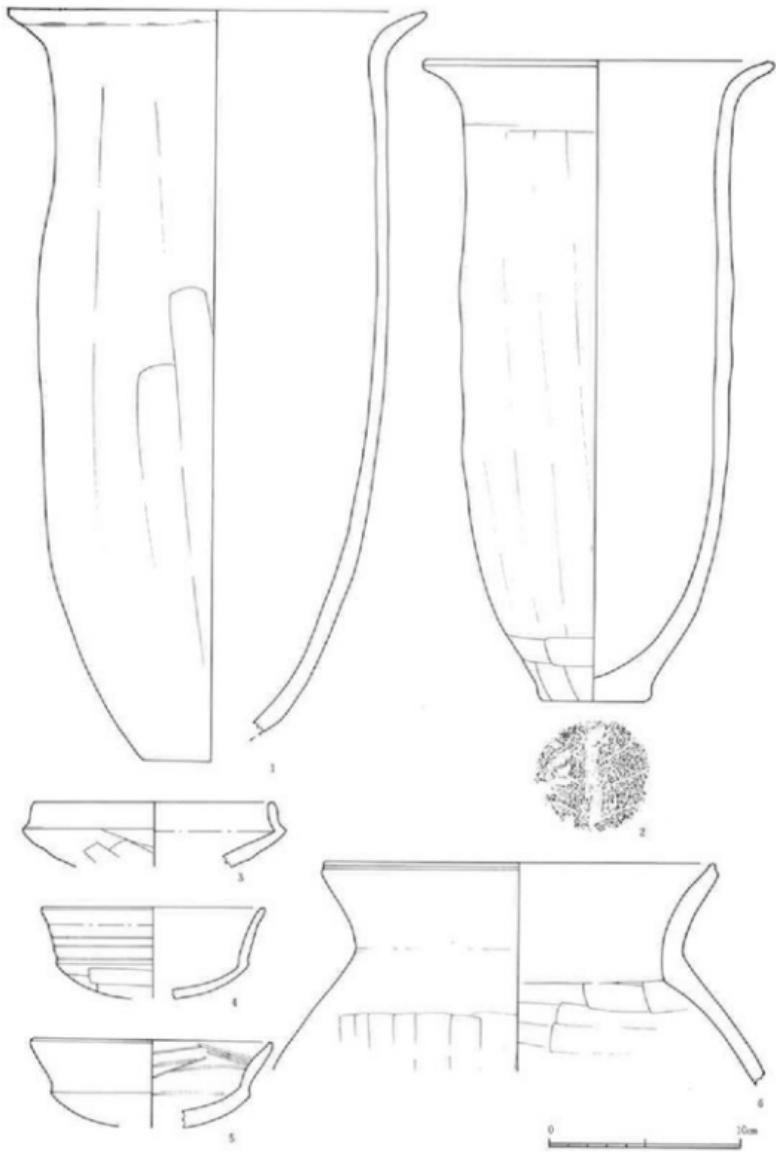
周溝は検出されなかった。

ピットは2基検出されたがいずれも浅い。又間仕切状の溝が検出されている。

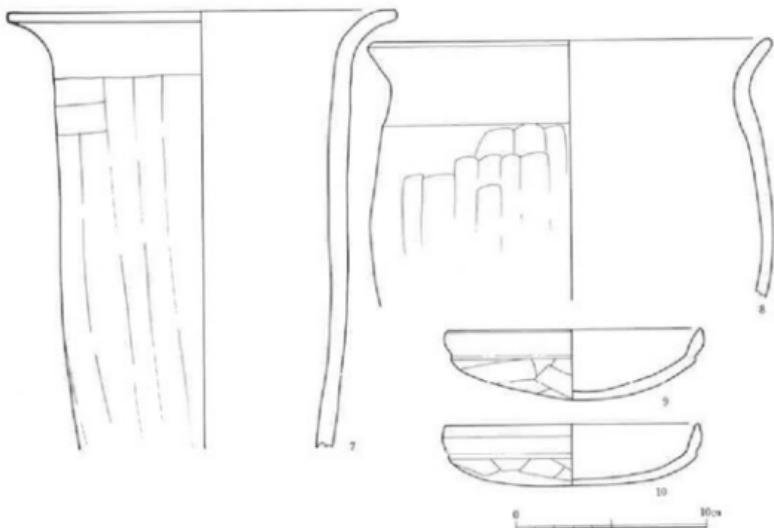
遺物は調査範囲に比べて比較的多く出土している。又、河原石が26点出土している。



第6図 1号住居址実測図



第7図 1号住居址出土実測図 (1)



第8図 1号住居址出土土器測図(2)

表1 1号住居址出土遺物観察表

番号	名稱 保存度	LJ径 最高 底径(cm)	縁形、底、側面の特徴	粘土	機成	色調	備考
1	甕 口縁一部欠	22.1 39.7 —	長柄甕。口縁部内外面ヨコナギ。外面部腹窓いハラケ ズリ。	小石、砂粒 を多く含む。	やや不良	に赤い褐色	15
2	甕 1/2存	— 33.8 5.3	長柄甕。口縁部内外面ヨコナギ。外面部腹窓ハラケズリ。 底部付近ヘラケズリ。	小石、砂粒 を多く含む。	やや不良	に赤い褐色	15 底部水薬痕。
3	甕 1/2存	12.5 3.4 —	口縁部内外面ヨコナギ。外面部ハラケズリ。	粗 疊	良 好	赤褐色 (糊斑あり)	覆土
4	甕 1/4存	11.6 4.8 —	口縁部ヨコナギ。外面部ハラケズリ。	粗 疊	良 好	褐色	覆土
5	甕 1/4存	12.4 4.6 —	口縁部内外面ヨコナギ。内面ミガキ。内底黒色絞締。	粗 疊	良 好	外面部褐色 内面黒色	覆土
6	甕 口縁部のみ1/2存	20.4 — —	口縁部内外面ヨコナギ。外面部方向のヘラケズリ、内 面部方向のヘラケズリ。	小石、砂石 を含む。	良 好	褐褐色	1
7	甕 底面欠損	20.4 23.0 —	長柄甕。口縁部内外面ヨコナギ。外面部縦方向のヘ ラケズリ。	小石、砂粒 を含む。	やや不良	に赤い褐色	15, 19, 27 の甕 と同 1體の号 難作あり。
8	甕 口縁部のみ1/3存	20.8 — —	口縁部内外面ヨコナギ。外面部方向のヘラケズリ。	砂粒を 含む。	良 好	褐色	3
9	甕 1/2存	12.3 3.7 —	口縁部内外面ヨコナギ。外面部ハラケズリ。	粗 疊	良 好	深褐色	2
10	甕 1/2存	13.1 3.2 —	口縁部内外面ヨコナギ。外面部ハラケズリ。	粗 疊	良 好	褐色	4

本址は調査区南西側C-2グリッドで検出された。北東側一部のみの調査である。

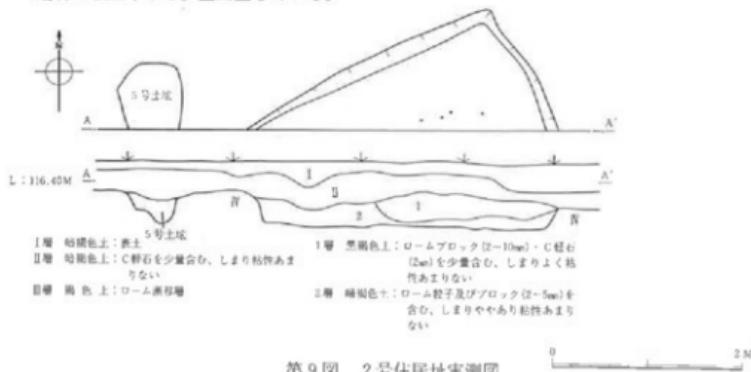
主軸方向は N52°E と思われ、方形を呈すると考えられる。

確認面は第Ⅱ層下、第Ⅳ層上面で、掘り込みは30cmである。

種土は自然堆積である。

周溝、ピット、カマド等の付帯設備は調査した範囲では検出されなかった。

遺物は覆土中から少量出土している。



第9図 2号住居扯案測図

遺物)

第10図1は臺の1/4片である。

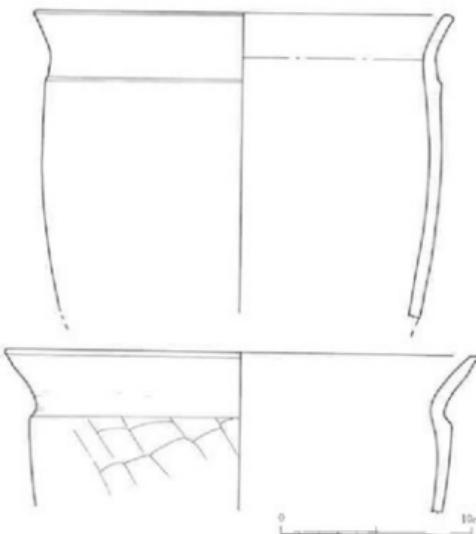
口径は21.6cmである。

摩耗が激しい。胎土は細かく、焼成は良好である。色調は赤褐色を呈する。

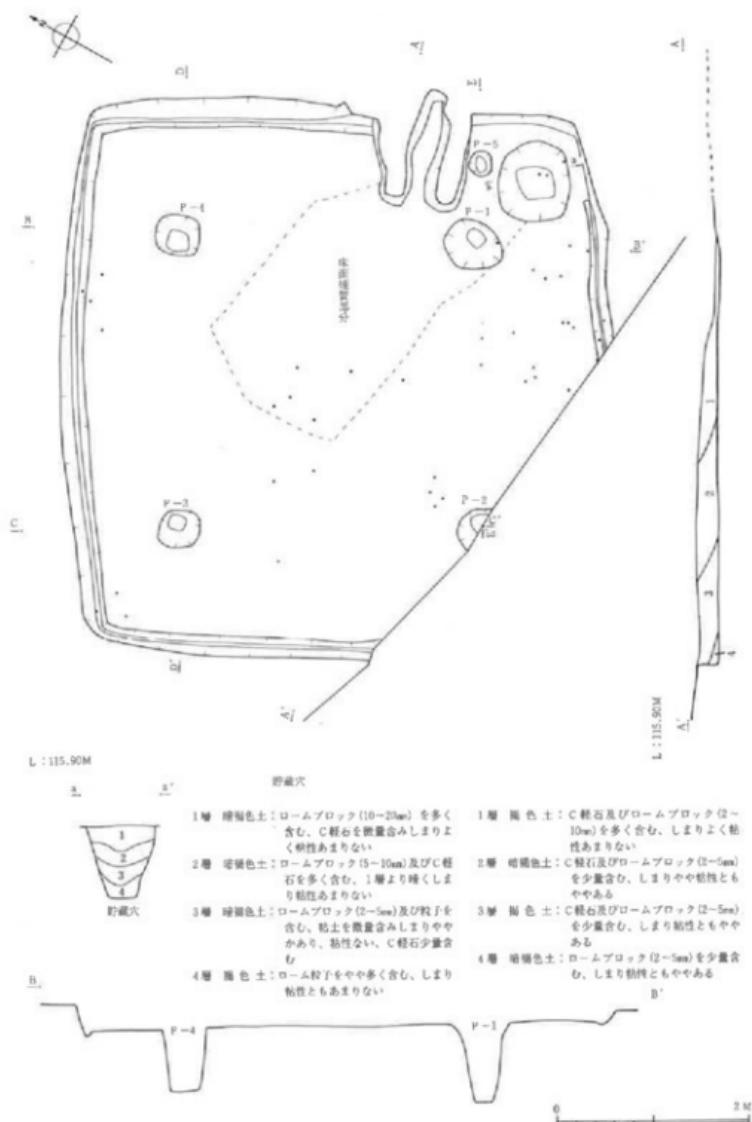
第10図2は壺の口縁部片である。口径は24.6cmである。

口縁部はやや外反し、内外面に横ナデを施す。外面頸部下はヘラ削りが見られる。胎土は細かく、焼成は良好である。色調は褐色を呈する。

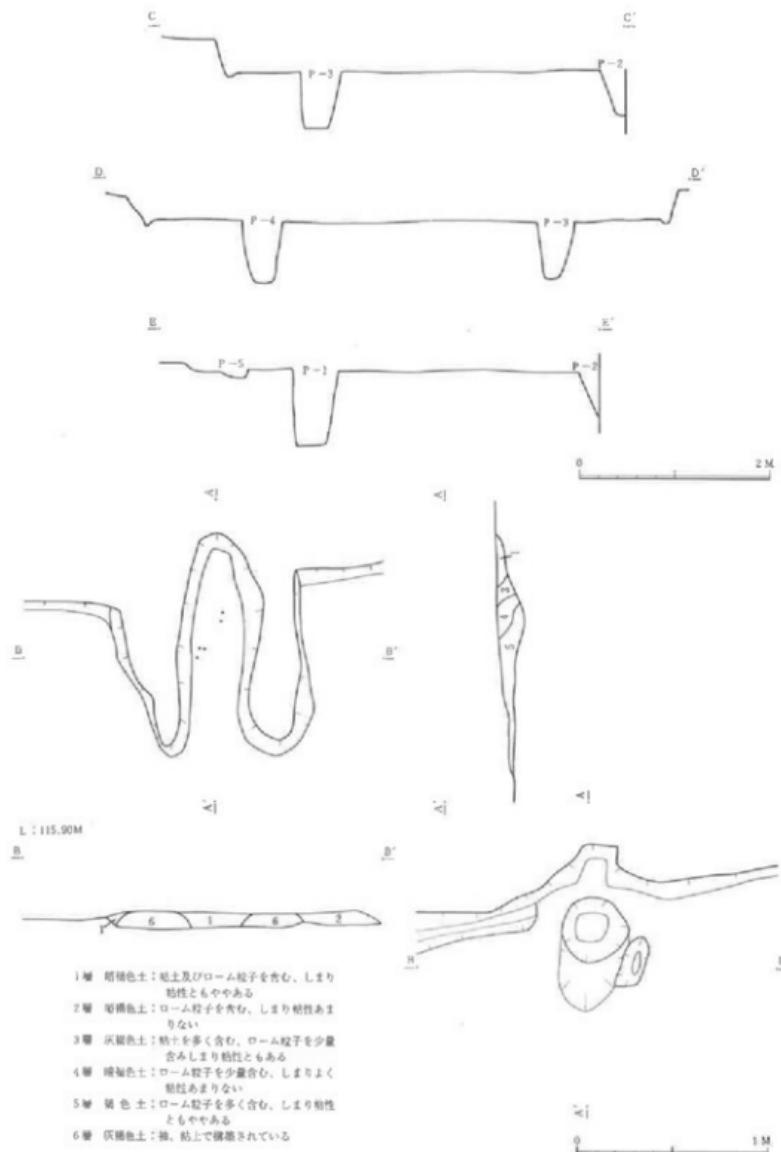
2は麿としたが黒の可能性もある。



第10図 2号住居址出土遺物



第11図 3号住居址実測図 (1)



第12図 3号住居址実測図 (2)

調査区南側C-2・D-2グリッドで検出。南西側の一部が調査区外となっている。

主軸方向はN 62°Eである。規模は長軸590cm、短軸585cmで方形を呈する。

確認面は第Ⅲ層上面で、深さは20cmである。壁はなだらかに立ち上がり、床面は踏み固めが認められ、カマド周辺が顯著である。

覆土は4層に分けられ、自然堆積を示す。

周溝は北東側の貯蔵穴付近を除いて、周全する。

貯蔵穴はカマドの東側で検出された方形の掘り込みである。

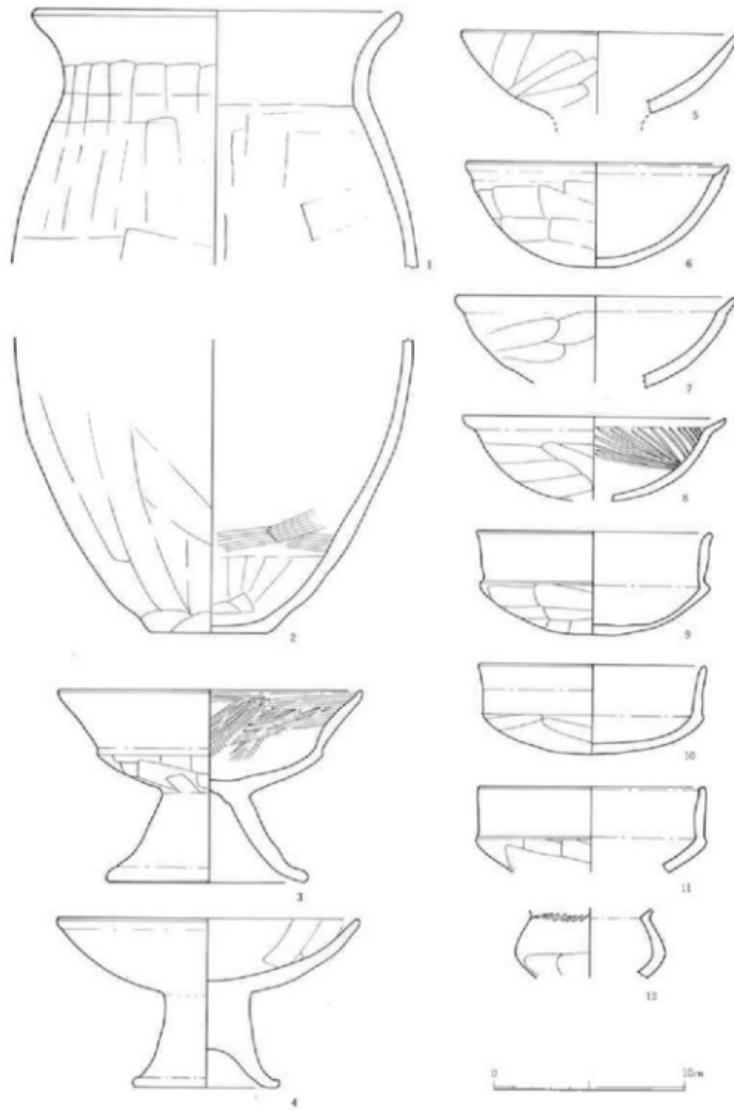
ピットは5基検出された。P-1~P-4が主柱穴と思われる。P-5はカマドの右袖付近で検出された。

カマド 北壁中央で検出された。上部はトレンチによって削平されている。袖は粘土で構築され、1m程度住居址内に張り出している。支脚は検出されなかった。煙道部の壁外への掘り込みはわずかである。

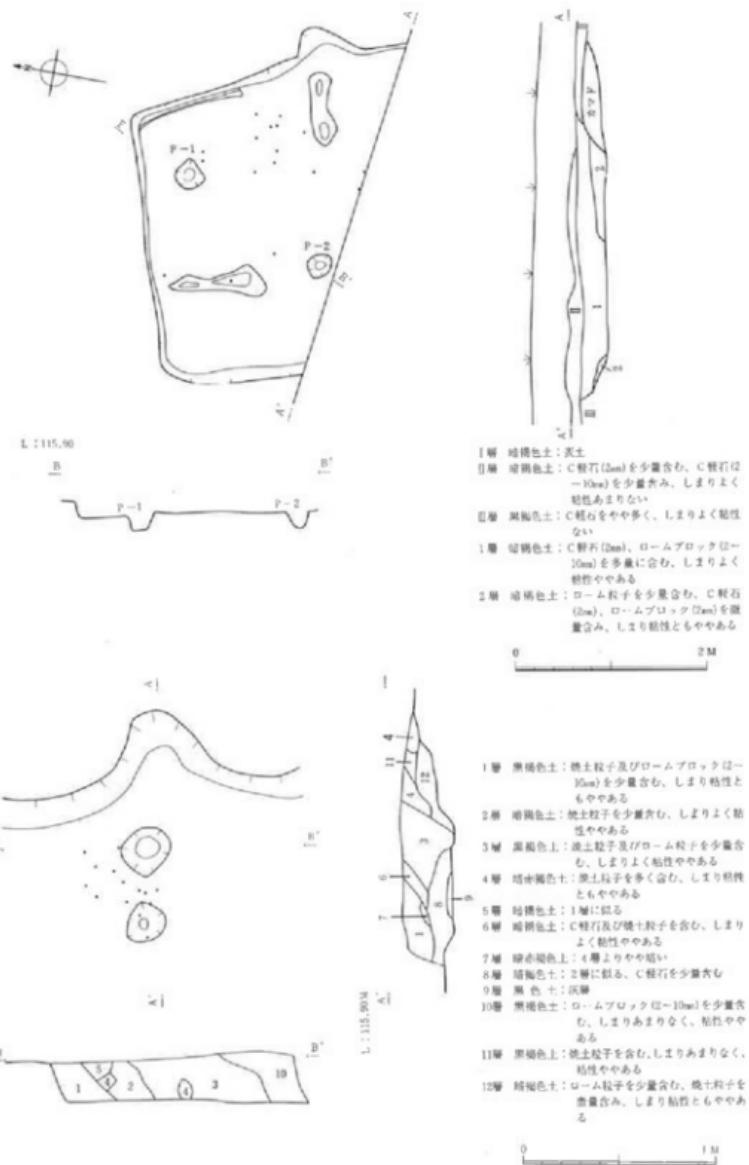
遺物は貯蔵穴付近にやや多く集まる。

表2 3号住居址出土遺物観察表

番号	石 呼 通称	口徑 沿面 深さ(cm)	断面、底、蓋形の特徴	輸土	焼成	色 製	備 考
1	窓 上平部1/3左	19.1 13.5	口縁部ヨコナギ・側面部外縁方向のヘラケズリ内面ヘ ラケズリ	小石、砂粒 を含む。	良 好	赤褐色	床着16
2	窓 下平部等	— 6.0	内外面ヘラケズリ。	砂粒を 含む。	良 好	赤褐色	床着19
3	窓 側部と床部1/2左	15.9 10.1 10.8	環部後金持つ。外周部内面ヨコナギ・下部ヘラケ ズリ内面ヨコナギ。側部内外面ヨコナギ。	小石を少 量含む。	良 好	赤褐色 (黒斑あり)	9、10、14
4	窓 側部と床部1/2右	15.5 9.7 7.5	環部内面ヘラケズリ。	小石、砂粒 を含む。	良 好	赤褐色	17
5	窓 床部のみ算	14.3	外縁ヘラケズリ。	小石を 含む。	良 好	褐色	9
6	窓 口縁部一永久	13.6 5.5 —	口縁部外縁ヨコナギ。外周ヘラケズリ。	小石、砂粒 を含む。	良 好	に赤い褐色	床着10
7	窓 1/3右	14.6 — —	口縁部外縁ヨコナギ。外周ヘラケズリ。	砂粒を 含む。	良 好	に赤い褐色	14、19、22
8	窓 1/2右	13.6 — —	口縁部外縁ヨコナギ。外周ヘラケズリ。内面ヨコナギ。	砂粒を 含む。	良 好	に赤い褐色	15
9	窓 玄関	12.5 5.4 —	口縁部ヨコナギのみに立つ。口縁部内外面ヨコナギ。外周部 ヘラケズリ。	砂粒を 含む。	良 好	赤褐色	野1
10	窓 2/3左	11.7 4.7 —	口縁部ヨコナギのみに立つ。口縁部ヨコナギ。外周部ヘ ラケズリ。	砂粒を 含む。	良 好	赤褐色	17
11	窓 1/4右	11.8 4.5 —	口縁部ヨコナギのみに立つ。口縁部内外面ヨコナギ。外周部 ヘラケズリ。	砂粒を 含む。	良 好	赤褐色	17、18
12	窓 1/4左	— — —	底部「く」の字底に外反する。外周部下平ヘラケズリ。	砂粒を 含む。	良 好	褐色	1



第13図 3号住居址出土遺物



第14図 4号住居址実測図

調査区南側D-2、E-2グリッドで検出された。南側は一部調査区外となっている。

主軸方向はN70°Eである。規模は東西方向が320cmで、南北方向は不明である。

確認面は第Ⅲ層上面で、掘り込みは20cmである。

壁はだらかに立ち上がり、床面はほぼ平坦で、踏み固めはあまり認められない。

覆土は暗褐色土を基調とし、2層に分けられ、自然堆積を示す。

周溝はカマドの左側で一部検出された。北側には間仕切状の溝が検出された。

ピットは2基検出されているが、いずれも浅い。

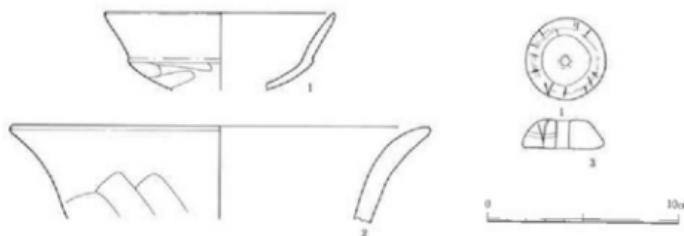
カマド 北東壁中央で検出された。袖、支脚等は検出されなかった。煙道の壁外への掘り込みは30cmで、緩やかに立ち上がる。

充填土の中の9は灰屑である。火床部は検出されなかったが、中央部に浅い掘り込みが見られる。

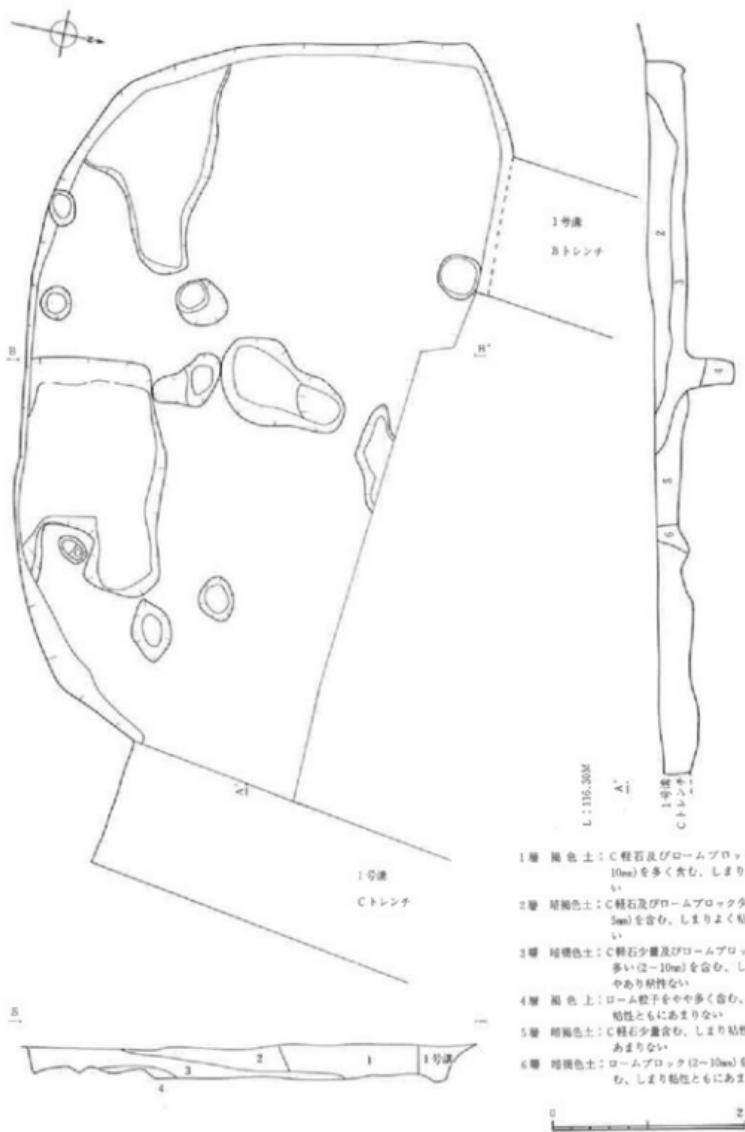
遺物は少量であるがカマドを中心にやまとまって出土した。また覆土中からではあるが、滑石製の紡車車が出土している。

表3 4号住居址出土遺物観察表

番号	器形 遺物名	口径 直徑 底面 底径(cm)	断面、成・整形の特徴	胎 土	成 形	色 調	備 考
1	环 1/67	11.8 — —	口縁部ヨコナギ。外底底部ヘラケズリ。	粘 土	直 研	褐 色	カマド12
2	甌 口縁部1/5存	21.6 — —	口縁部ヨコナギ。外底底部ヘラケズリ。	石英、長石 を含む。	直 研	褐 色	カマド13
3	輪轂車 完形	直径 1.5 直径 4.4 重量 41.5g	表面、擦痕あり。傾斜は向右側から。	—	—	黒 色	滑石製、覆土10



第15図 4号住居址出土遺物



第16図 堅穴状造構実測図

## 第2節 壇穴状遺構 (第16図 図版5-1)

本構は調査区西側C-1・C-2グリッドで検出された。北側で1号溝と重複し、本構の方が古い。

確認面は第Ⅱ層下、第Ⅳ層上面で、掘り込みは約40cmである。

主軸方向はN80°Eである。プランは隅丸方形を呈すると思われる。

覆土はC軽石、ロームブロックなどを含む。

壁はやや外反して立ち上がり、床面は凹凸がみられ、踏み固めは認められない。

ピットや一段底となった部分が認められるが、規則性がない。

遺物は少量の出土である。ほとんどが細片で、摩耗している。

## 第3節 土塙

土壤は5基が検出されている。形状はさまざまである。3・4・6号土塙は欠番である。

### 1号土塙 (第17図 図版5-2)

本塙は調査区北西側B-1グリッドで検出された。西側が調査区外となっており、主軸方向、規模等は不明である。確認面は第Ⅱ層下、第Ⅳ層上面で、掘り込みは最深部で30cmを計る。底部はやや凹凸が認められる。遺物は覆土中から土師器の細片が出上している。

### 2号土塙 (第17・第18図 図版5-3・12)

本塙は調査区北西側B-1グリッドで検出された。主軸方向はN18°Wである。規模は170cm×110cmで方形を呈する。確認面は第Ⅱ層下、第Ⅳ層上面で、掘り込みは25cmである。遺物は須恵器の高环の脚部が出土している。底形は10.2cmで、3方向に透しが入る。胎土は緻密で、色調は灰褐色である。焼成は良好である。

### 5号土塙 (第17図 図版5-4)

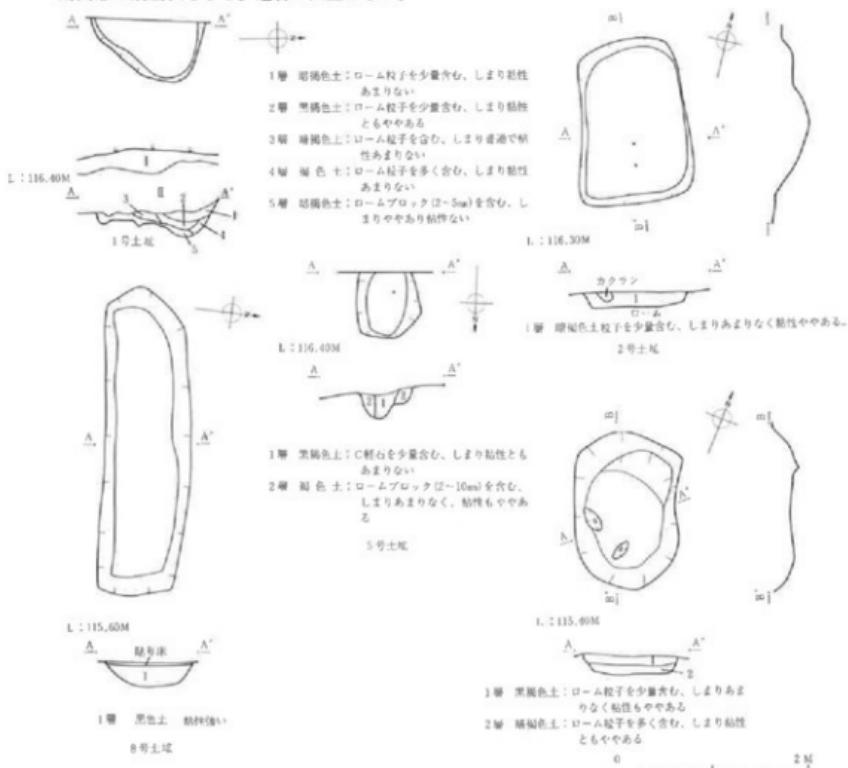
本塙は調査区南西側B-2グリッドで検出。南側の一部が調査区外となる。主軸方向はN9°Eである。規模は不明であるが橢円形を呈すると思われる。確認面は第Ⅲ層で、深さは25cmである。遺物は覆土中から土師器の細片が出土している。

### 7号土塙 (第17図・18図 図版12)

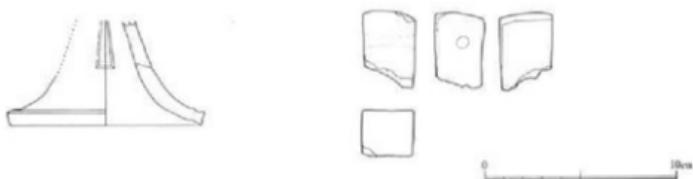
本塙は調査区南東側D-2グリッドで検出。主軸方向はN24°Wである。規模は160cm×110cmで橢円形を呈する。確認面は第Ⅲ層で、掘り込みは25cmである。断面形は皿状となる。遺物は砾石の破片が出土している。石質は粘板岩で孔がたたれる。使用面は全面に認められる。

8号土塙 (第17図 圖版5-5)

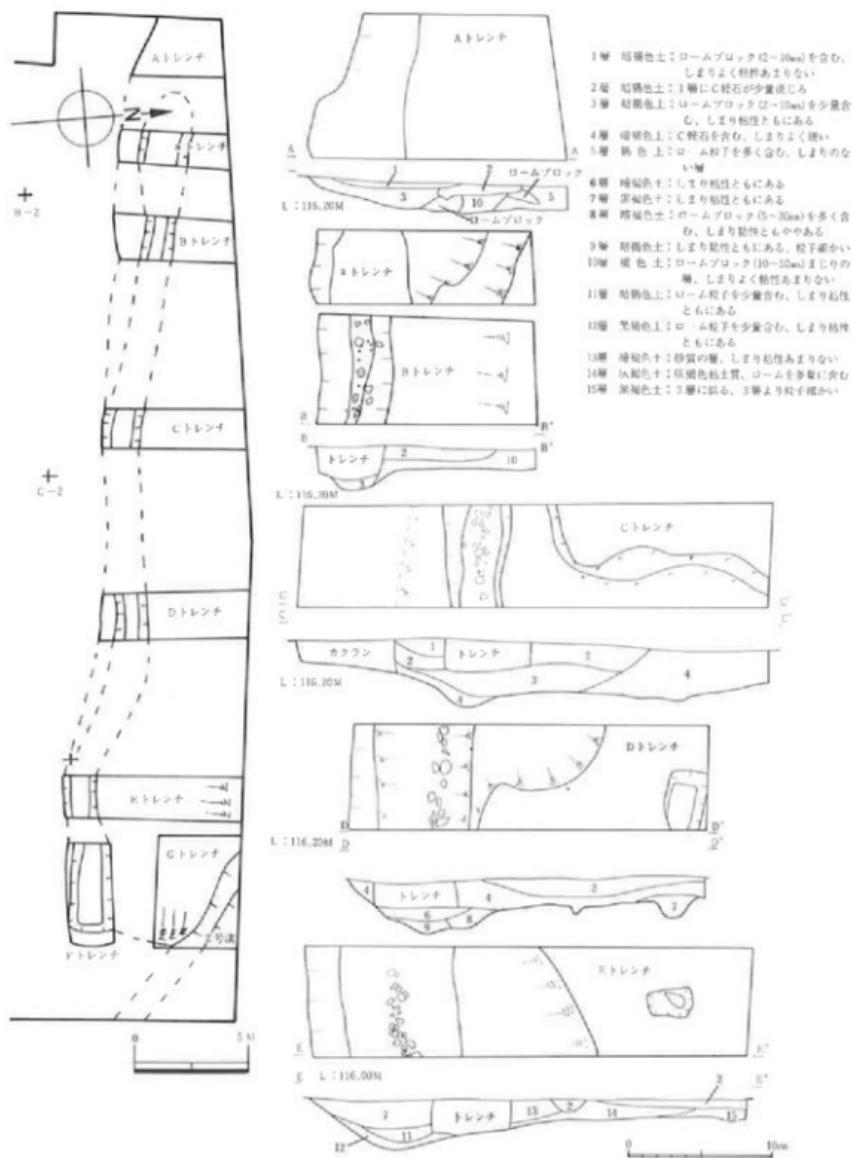
本塙は調査区北東側D-1グリッドで検出された。主軸方向はN85°Eである。規模は330cm × 90cmの長方形を呈する。1号溝内の検出で、上部は貼り床となっており、本塙の方が古い。断面形は鎌底状となる。遺物の出土はない。



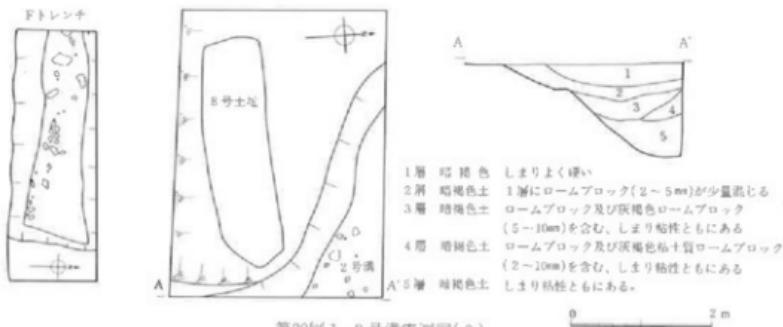
第17図 土塙実測図



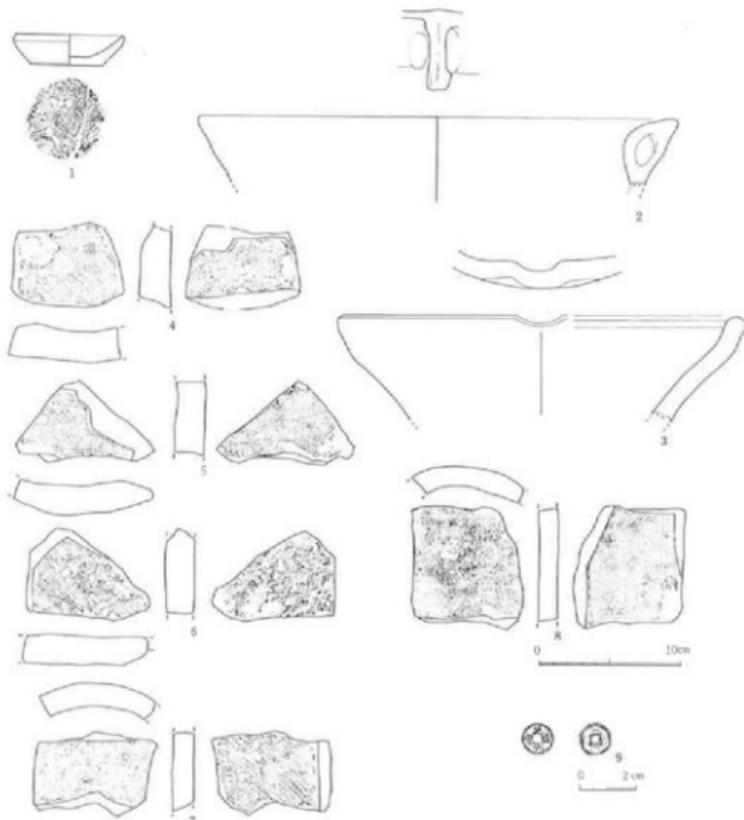
第18図 2・7号土塙出土遺物



第19図 1・2号溝実測図 (1)



第20図 1・2号溝実測図(2)



第21図 1号溝出土遺物

表4 1号溝出土遺物観察表

番号	器 形 遺存度	U型 断面 底径(cm)	器形、成・整形の特徴
1	皿 完存	7.6 2.2 5.1	底部静止糸切り。
2	内耳鍋 破片	33.2 —	内耳部分卵形。
3	片口鉢 口縁部片	27.9 —	片口部分指による成形。
4	瓦	厚さ 2.1	女瓦(平瓦)布目。
5	瓦	厚さ 2.1	女瓦(平瓦)布目。
6	瓦	厚さ 2.0	女瓦(平瓦)布目。
7	瓦	厚さ 1.5	男瓦(丸瓦)布目。
8	瓦	厚さ 1.3	男瓦(丸瓦)布目。
9	古錢	直徑 2.2	(至)大通宝 元銭(1310年鑄造)か。

## 第4節 溝

1号溝 (第19~21図 図版6・7・8-1・12 表4)

本溝は調査区北側で検出された。走方向はN82°Wで、ほぼ東西方向に走る。

確認面は第I層下である。2段の掘り込みとなっており、上段は北側の立ち上がりは不明であるが、逆台形を呈すると思われる。下段はU字状となっている。東側のAトレンチには下段の掘り込みではなく、西側のF・Gトレンチで立ち上がる。

覆土は自然堆積を示し、しまりが良く硬い。

下段には水流の跡が認められ、石が流れ込んでいる。

遺物は覆土中からやや多く出土しているが細片が多い。

調査区での長さは32.5mである。幅はEトレンチで6mを計る。確認面からの深さは上段で40cmから60cm下段で60cmから100cmである。

2号溝 (第19・20図 図版8-2)

本溝は調査区北東側で検出された。一部のみの検出のため詳細は不明である。走方向は北西から南東と思われる。

確認面は第I層下である。深さは溝底した部分で130cmで、急角度で深くなる。

覆土は自然堆積を示し、軽石の混入はほとんどない。

遺物は覆土中から少量土器片が出土しているが、流れ込みと思われる。

## 第5節 遺構外出土遺物（第22図）

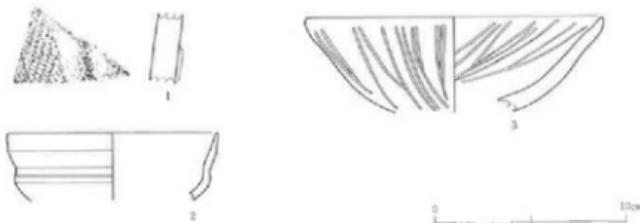
遺構外から出土した遺物は大形整理箱に1箱弱と量は少ない。時代的には古墳時代後期鬼高式のものと、中・近世の陶器片がほとんどで、いずれも細片である。

縄文土器は図化した1片のみの出土である。

第22図1は縄文土器片である。中期後半加曾利E式で、隆帯が見られる。縄文は単節R Lである。

第22図2は土師器の坏である。口径部片である。口径は114cmで、底部は丸底になる。口径部外面には横ナデが施される。胎土は緻密で、焼成良好である。色調は褐色である。古墳時代後期鬼高峰期の遺物である。

第22図3は土師器の高坏である。坏部の1/3片である。内外面共に磨きが入る。胎土は赤色粒を含み、やや荒い。焼成は良好で、色調は赤褐色である。古墳時代後期鬼高峰期の遺物と思われる。



第22図 遺構外出土遺物

## 第5章 まとめ

本遺跡で検出された遺構・遺物は縄文時代・古墳時代・奈良・平安時代・中近世に及ぶものである。ここでは各時代別にまとめる。

### 縄文時代

加曾利EⅢ式の土器片1片のみの検出である。遺構は検出されなかった。

### 古墳時代

住居址4軒が検出された。1号住居址は鬼高Ⅲ式で、7世紀後半と考えられる。2号住居址は出土した遺物から鬼高式の末葉と思われるが、調査が一部のため細かい時期決定はできない。3号住居址は鬼高Ⅰ式で6世紀初頭と考えられる。4号住居址は鬼高Ⅱ式で6世紀末から7世紀初頭と考えられる。

閑泉橋遺跡の調査結果（鬼高Ⅰ式2軒、鬼高Ⅱ式1軒）と考え合わせると、この地域で検出された住居址は鬼高期のはば全般に及ぶ。

2号土塙と1号溝・竪穴状遺構からは鬼高期の土器片が検出されている。2号土塙から須恵器の高坏の脚部が検出されており、6世紀末葉から7世紀初頭にかけての遺物と思われる。1号溝・竪穴状遺構の出土遺物は住居址からの流れ込みと考えられる。摩耗した坏・甕の破片が出土している。

土塙・竪穴状遺構は、2号土塙以外時代不明であるが、いずれも古墳時代以降の所産と考えられる。

### 奈良・平安時代

1号溝から国分寺瓦が出土している。流れ込みと思われ、いずれも破片である。

### 中・近世

内耳鍔の破片・片口注口の鉢線、擂り鉢片、古銭などが1号溝から出土している。1号溝の構築年代は不明であるが、B軽石が認められないことからも古代末以降の所産と考えられる。2号溝は一部のみの調査のため不明な点が多い。

これら2条の溝と閑泉橋遺跡検出の2状の溝との関係は不明である。

本遺跡は上毛野国府推定域と一部重複する地域にある。しかし国府に間連すると思われる遺構の検出はない。

## 参考文献

上総国分寺周辺地域発掘調査報告	群馬県教育委員会	昭和46年
清里陣馬遺跡	群馬県埋蔵文化財調査事業団	昭和56年
清里庚申塚遺跡	群馬県埋蔵文化財調査事業団	昭和56年
北原遺跡	群馬町教育委員会	昭和57年
元總社明神遺跡Ⅰ	前橋市教育委員会	昭和57年
文化財調査報告書 第13集	前橋市教育委員会	昭和57年
井出村東遺跡	群馬町井出村東遺跡調査会	昭和58年
日本の古代遺跡 17 群馬西部	保育社	昭和59年
總社桜ヶ丘遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	昭和60年
箱田境遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	昭和60年
群馬町の遺跡	群馬町教育委員会	昭和61年

# 写 真 図 版





1. 確認全景 西→東



2. 1号住居地遺物出土状況



3. 同



4. 同



5. 同

図版 2



1. 1号住居址発掘状況



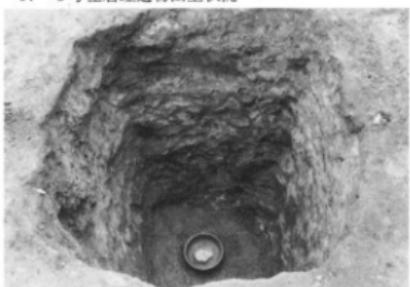
2. 2号住居址遺物出土状況



1. 3号住居址遺物出土状況



2. 同



3. 3号住居址貯蔵穴

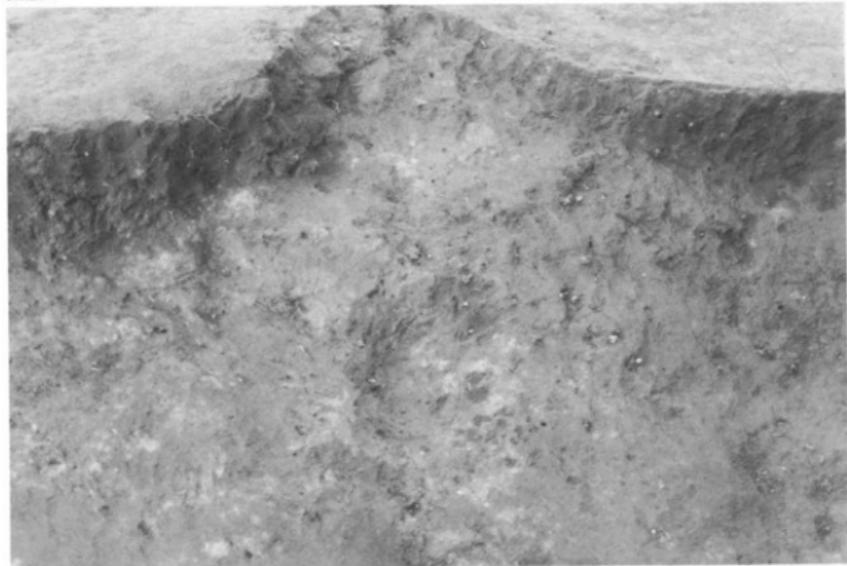


4. 3号住居址カマド



5. 3号住居址完掘状況

図版 4



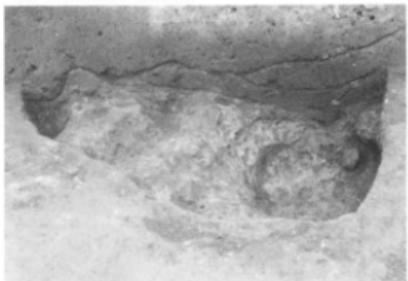
1. 4号住居址カマド



2. 4号住居址完掘状況



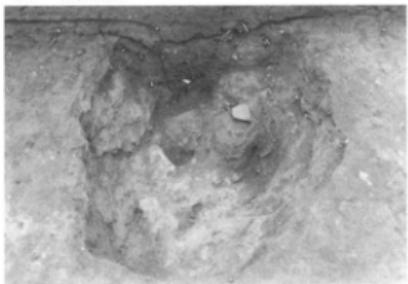
1. 墓穴遺構完掘状況



2. 1号土塚



3. 2号土塚



4. 5号土塚



5. 8号土塚

図版 6



1. 1号溝B トレンチ遺物出土状況 南→北



2. 同 西→東



3. 1号溝C トレンチ遺物出土状況 南→北



4. 同 西→東



5. 1号溝D トレンチ遺物出土状況 南→北



6. 同 西→東



1. 1号溝E トレンチ遺物出土状況 南→北



2. 同 西→東



3. 1号溝G トレンチ遺物出土状況 西→東



4. 同 完掘



3. 1号溝C トレンチ完掘状況 西→東



6. 1号溝D トレンチ完掘状況 西→東

図版 8



1. 1号溝E トレンチ完掘状況 西→東



2. 2号溝遺物出土状況 西→東



3. 発掘調査終了時全景 西→東



1号住-1



1号住-2



1号住-3



1号住-6



1号住-4



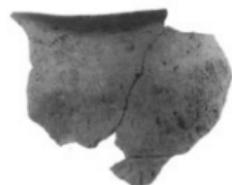
1号住-5



1号住-7

1号住居址出土遺物

图版10



1号住—8



1号住—9



1号住—10



2号住—1



2号住—2



3号住—1



3号住—2



3号住—3



3号住—4

1·2·3号住居址出土遗物

図版11



3号住-5



3号住-6



3号住-7



3号住-8



3号住-9



3号住-10



3号住-11



3号住-12



4号住-1



4号住-2



4号住-3

3・4号住居址出土遺物

图版12



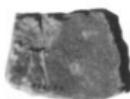
1号溝—1



1号溝—2



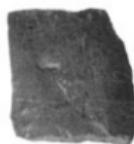
1号溝—3



1号溝—4



1号溝—5



1号溝—8



2号土塙



7号土塙

1号溝、2·7号土塙出土遗物

関泉樋南遺跡

印 刷	昭和61年 3月26日
発 行	昭和61年 3月31日
発行者	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集者	山武考古学研究所
印 刷	株式会社 文化総合企画
	T E L 0476(24)1563

1-10  
201  
2